

論文 / 著書情報
Article / Book Information

題目(和文)	持続可能な都市づくりにおける都市農業の役割と食の可能性
Title(English)	
著者(和文)	本澤 絢子
Author(English)	Ayako Honzawa
出典(和文)	学位:博士(学術), 学位授与機関:東京工業大学, 報告番号:甲第12483号, 授与年月日:2023年3月26日, 学位の種別:課程博士, 審査員:土肥 真人,齋藤 潮,奥山 信一,真野 洋介,坂村 圭
Citation(English)	Degree:Doctor (Academic), Conferring organization: Tokyo Institute of Technology, Report number:甲第12483号, Conferred date:2023/3/26, Degree Type:Course doctor, Examiner:,,,,
学位種別(和文)	博士論文
Category(English)	Doctoral Thesis
種別(和文)	要約
Type(English)	Outline

論文要約

「持続可能な都市づくりにおける都市農業の役割と食の可能性」

環境・社会理工学院
建築学系 都市・環境学コース
本澤絢子

本論文は「持続可能な都市づくりにおける都市農業の役割と食の可能性」と題し、全8章から構成される。

第1章「研究の背景」では、研究の背景、目的、構成、方法、先行研究と本研究の位置づけ、本研究の意義を示している。人々が安心して暮らし続けられる持続可能な都市の検討において、食は、命に直結する栄養源であるとともに、人々と自然及び社会との関係構築に寄与し人々自身のあり方を支えるものとして重要な一要素である。加えて、都市に食を大量供給する既存のフードシステムにより環境・社会問題が生じており、オルタナティブなフードシステムの検討も必要とされる。本論文は、都市において食を支える都市農家に着目し、都市と農業と食の3つの観点から「農家が営む都市農業」の実態を明らかにし、持続可能な都市づくりにおける「農家が営む都市農業」の新たな価値と役割を明らかにすることを目的とする。

第2章「フードシステムの変遷と都市農業に関わる都市計画および農業政策の変遷」では、文献調査および政策・法律分析から、都市とフードシステムの関係と、日本の都市農業の政策的位置づけを明らかにすることを目的とする。都市は外部からの食料供給を前提に成立し、日本の都市政策・農業政策においても長年都市農地・農業の存在を否定してきたが、都市農業振興基本法制定（2015年）以降、都市に農地を認め、生産緑地の貸借を円滑化して市民利用の促進を図っており、都市農業を取り巻く都市政策・農業政策の双方において新たな段階に入ったことを指摘している。

第3章「世田谷区の農家における農地・農業の変遷と現況」では、東京都世田谷区の農業の歴史と現状を把握した上で、同区で営農する農家20名へのヒアリング調査結果をもとに、各農家における農地維持・農業継続の実態より「農地農業記録シート」を、また各農家の意識をまとめた7種類の意見図を作成し、4章以降の分析に用いるデータベースとして整備している。

第4章「都市化における都市農家の実態と意識」では、都市化の観点から、都市農家の存続背景を明らかにすることを目的とする。都市化及び都市計画法改正（1968年）により、都市農業を不要とする社会的圧力が高まる中で、都市農家の家業継続意志と、都市化が可能にさせた土地経営が、世田谷区では300軒（1965年比4分の1）の都市農家を現在まで存続させてきたことを明らかにしている。土地経営は一方で、多額の相続税により営農継続を

困難にさせており、都市農業に対する負の側面もあることを指摘している。

第5章「農業的観点からみる都市農家の実態と意識」では、都市農家の農業に関する側面を明らかにすることを目的とする。都市農家は、各農家で地域固有の土壌と種子、地域の自然環境に即した農業技術などの資源を長年に渡り継承するとともに、都市農家が多くを占める地域のコミュニティで、江戸時代と同じ地域単位の、農業と密接に関係する神社及びその関連活動を維持していることを明らかにしている。

第6章「食の観点からみる『農家が営む都市農業』の価値と役割」では、農家が営む都市農業における食が、地域にもたらす機会と価値を明らかにすることを目的とする。都市農業は、農家が蓄積してきた資源を用いて食を支え、直売や小学校での授業、農業体験農園などを通じて地域住民に提供するとともに、生産と消費の近接性と食がもたらす感動により、農家と地域住民の間に信頼関係を構築して、食の安全性を担保し環境負荷を低減させるオルタナティブなフードシステムになっている。また、農家と地域住民の信頼関係を端緒とする、都市農業と地域の市民活動の接続から、食を通じた新たな地域コミュニティ形成の可能性を指摘している。

第7章「総合考察」では、以上の分析と考察をまとめ、農家が営む都市農業には、地域固有の自然的・文化的資源の蓄積という価値があり、食を通じて地域住民が居住地域と接点を持ち、同時に都市農家との関係構築により新たな地域コミュニティを形成することで、持続可能な都市づくりに寄与するという役割があることを明らかにしている。また、農家が営む都市農業は、地域にあるオルタナティブなフードシステムとして、持続可能な都市におけるフードシステムの具体的なあり方を検討・実現する上で、人々の思考と行動の拠り所となる役割を果たすことを示している。

第8章「結論」では、各章で得られた成果をまとめ、結論を述べている。